みんなの文芸

俳句・短歌を募集
5日必着
作品には、ふりがなをつけ、住所・氏名・電話番号を明記してみらい創造課までお寄せください。
1人1句、1首に限ります。

俳句 根岸茉莉 選　投稿数 19 句

いちょう黄葉七百年の皺刻み　下日野沢　小原　和夫

(評)寒暖の差が激しくなり紅葉が見頃を迎えた時の句。大銀杏の黄葉は群を抜く鮮やかさです。作者はその幹に目を向け、七百年もの星霜に耐えて刻まれた皺に感動したのです。これからもずっと美しい黄葉を見たいですね。着眼点が良いと思いました。二句目、今年の暦もあと一枚。年を取ると一年が余計に早く感じます。仕事も頑張れ青春を謳歌した昭和も遠くなって来ました。楽しかった思い出を胸に実りの年を重ねて生きましょう。三句目、長年使い慣れた辞書は愛着と温もりがあります。少し痛んできた頁を繕いながら大切に使っている作者。燈下親しの季語が効いています。

暮暦昭和のあの日また遠く　国神　土屋　良彦

繕える愛用の辞書燈下親し　三沢　眞下　杏子

子のシャツを夫は野良着に松手入　下田野　新井　節子

コスモスの種と記して空き小箱　下日野沢　浅見　豊子

穂をゆらす峡田は静か夕の道　国神　藤原マキ子

卓上に榠樝の実香る壺春堂　三沢　新井　民子

友逝きて侘助句碑により添へり　皆野　根岸　詩子

木漏れ日に大き口開く石榴かな　皆野　村田ハツ代

秋天や忍野八海の鯉あまた　三沢　新井　叶子

主なき庭の柿の実たわわなり　皆野　櫻井　早苗

短　歌（投稿順）

妙法と雲取繋ぐ縦走路三峰越えて浮かぶ富士山　皆野　大澤　貴夫

一と莢ずつ剥きし不作の小豆粒選別しつつ夜長のテレビ　三沢　眞下　杏子

ヨタヘロの三爺行くぞ北海道最後の旅だ紅葉の真中　皆野　戸塚喜久雄

木枯らしに木の葉ひらひら舞ひ散る日届く悲しき喪中のはがき　下日野沢　浅見　豊子

吾が人生共稼して束の間に父母の年越え今を生き抜く　皆野　根岸　詩子

ポピー畑花咲く春に願い込め広き畑を耕す人等　皆野　村田ハツ代

文学の香に誘われて秋の午後清けく響く朗読を聴く　皆野　萩原　初恵

五合目にて富士山頂を仰ぎ見る百歳成就の鈴音清しき　三沢　新井　叶子

旅行支援使へど上がる電気代予約サイトを押す指重し　皆野　打木　昭廣

紬稀三つ大野先生百三誕生日百年違い十月七日　皆野　石原　達也

青空に映ゆる渋柿色の美し北風吹きて取る日を待ちぬ　三沢　新井　民子

寒くなり戦禍の街の人々の生活思ふコタツの中で　上日野沢　四方田利男

干柿の蜂屋を貰い嬉しくて夕餉早目に柿剝く夜なべ　下田野　新井　節子

心地よい吹く風背にしてどこまでも歩きたくなる青空広し　国神　藤原マキ子

思春期の孫と母親繋ぎましょ話題無難に「マイナポイント」　皆野　引間　万亀